順位	氏名（議席）	発言の要旨
20	石川 浩司（4）	<p>1. 観光施設である富士川楽座の在り方と体験館どんぶらのリニューアルについて</p> <p>本年、25周年を迎えた富士市の観光施設である富士川楽座は、年間350万人余の方に御利用いただいている本市の観光の拠点施設であると認識しています。</p> <p>近年では、高速道路利用のお客様だけでなく、清水港に入港した大型客船のお客様が富士宮市の浅間大社に向かう途中に富士川楽座で休憩する等、インバウンド需要の取り込みも成果を挙げています。</p> <p>一方で、開館から25年以上が経過し、施設の老朽化が著しく、特に体験館どんぶらは、当初は川の科学館として整備し、その後平成20年に体験型の科学館にリニューアルした後は、応急的な修繕しか行っておらず、有料施設にふさわしい水準と言い難い状況です。</p> <p>リニューアルの概算事業費は4億円で、現状の内部の解体から建築、電気、機械設備や展示演出等を含んだものでありますが、近年の労務、施工費用の高騰を受け、予備として全体金額の20%のコストアップの可能性があることも令和7年5月27日の産業教育委員会協議会で報告されています。</p> <p>同施設は、道の駅を利用する市外の方はもちろん、夏休み期間中等における市内の子ども会等の利用も多く、天候や気温に左右されない子供の遊び場としても、貴重な存在です。</p> <p>こうした現状を踏まえ、市では昨年度から体験館どんぶらの全面リニューアルの検討を行っているとは承知していますが、その進捗状況と今後の富士川楽座の在り方について、以下質問します。</p> <p>(1) 本市の観光施策において、富士川楽座と体験館どんぶらをどのような施設と考えているのか。</p> <p>(2) 富士川楽座は、市内の他の施設と比べ、知名度や集客力も群を抜いており、行政の果たす役割として優先して投資していくべき施設と考えるのがいかがか。</p> <p>(3) 現状の体験館どんぶらには、どのような課題があると認識しているのか。また、今回のリニューアルはおおむねどのようなコンセプトで進める計画なのか。</p> <p>(4) リニューアルに当たって、財源の確保の見通しはいかがか。国の新しい地方経済・生活環境創生交付金が最も適していると思うが、採択の見通しはいかがか。</p> <p>(5) 体験館どんぶらの改修スケジュールをどのように考えているか。</p> <p>(6) 本市の観光拠点として富士川楽座をどのように位置づけ、展開していく予定か。</p> <p>2. 今後の松野・富士川地区の公共交通について</p> <p>本市でも公共交通をめぐる環境は厳しく、路線の廃止などが現実になってきています。6月定例会でも質問させていただいた松野・富士川地区の運行バスについても、現実問題として大北線を本年9月末に、蒲原病院線を12月末にと、全ての路線が廃止になることが決定しました。</p> <p>その中で、自主運行として大北線を12月末までほぼ同様な形で運行することとし、プロポーザルにて富士急静岡バスで運行が決定しました。</p> <p>現在、地元での説明会並びに要望アンケートを実施し、1月以降の運行を決定するとしていますが、その運行本数並びに運行経路を含め、以下伺いま</p>

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨
20	石川 浩司（4）	<p>す。</p> <p>(1) 山梨交通の路線バス廃止に伴い、プロポーザルで富士急静岡バスによる運行が決定したが、運行に関して条件などはあったのか。</p> <p>(2) 今回、補助金ではなく自主運行になった最大の要因は何か。</p> <p>(3) 既に説明会が行われているとのことだが、地元の反応はいかがか。</p> <p>(4) 現在、要望アンケートを取っているが、このアンケートはどのように生かすのか。</p> <p>(5) 1月以降のダイヤについて、市はどこが最大のポイントと考えているのか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
21	福永 意人（1）	<p>1. 富士市職員配置適正化計画について</p> <p>少子高齢化や人口減少、経済構造の変化、デジタル化の進展など、行政経営が大きな転換を迫られる時代となった。このような状況下、国や地方自治体の行財政改革の一環として職員の削減が進められてきた。</p> <p>本市では、平成17年度から行財政改革の取組の一つとして富士市定員適正化計画が策定され、職員数の削減を推進してきた。現在では、計画の視点が職員数を対象とした「定員適正化」から職員の任用形態や勤務形態等を含めて対象とする「職員配置適正化」へと広げられ、令和4年度から令和8年度までを期間とした富士市職員配置適正化計画によって、総労働時間の縮減による総人件費の抑制が目指されているところである。本計画について、以下3点伺う。</p> <p>(1) 富士市職員配置適正化計画の進捗状況と計画達成に向けた見込みはいかがか。</p> <p>(2) 業務の見直しについてはどのようなプロセスで実施しているのか。</p> <p>(3) 現在の職員数と業務量のバランスは適正であると考えているか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
22	市川 真未（3）	<p>1. 歩きたくなるまちづくりについて</p> <p>今の富士市は車が中心の都市整備であり、歩いて楽しい富士市という視点はまだ十分に位置づけられていないと感じる。子供・高齢者も安心して歩け、商店街のにぎわいや観光回遊につながる、歩くことが目的になるまちは、市民生活の質と地域経済を支える基盤となる。そこで以下質問する。</p> <p>(1) 国土交通省が推進するウォークアブルなまちなかづくりに対する市の認識と、本市都市計画への位置づけはどうか。</p> <p>(2) 駅周辺や商店街における歩行空間の拡充等について検討したことはあるか。</p> <p>(3) 歩行者への暑さ対策は、北口再整備事業に盛り込まれているか。</p> <p>2. 公共施設の再編と市民参画について</p> <p>本市は、まちづくりセンターや図書館、学校施設など多様な公共施設を全市域に配置しており、市民生活や地域コミュニティーの拠点として大きな役割を果たしてきた。しかし、従来どおりの数と形を維持することは、人口減少や財政制約の時代において困難ではないか。そこで以下質問する。</p> <p>(1) 公共施設全体の再編における基本的な考え方は何か。</p> <p>(2) 地域施設である学校・図書館・まちづくりセンターについて、縦割りではなく、地域で総合的に再編する方針はあるか。</p> <p>(3) 地域施設を子供から高齢者まで幅広い世代が集い、交流できるような拠点としていくために、市民参画を進めてはどうか。</p>